

神奈川県立公文書館
令和8年度企画展示

「れっつ！こもんじょ
—公文書館所蔵中世文書の世界—」
展示目録

令和8年10月23日～12月20日
会場：神奈川県立公文書館1階展示室



番号	資料名	内容等	年代	資料ID
第一部 中世諸家文書				
1-1	六波羅下知状（前欠）	公文書館が所蔵する中で最古の文書。承久の乱終結後、六波羅探題として京都にあった北条時房（相模守平）と北条泰時（武蔵守平）が連署して出した下知状。何らかの武士の濫行を停止しているようだが、前欠のため非常に残念ながら詳細は不明である。	承久3 (1221)年 10月8日	2200930515
1-2	御成敗式目（貞永式目） 天正2年写本	鎌倉幕府の基本法典である御成敗式目のうち、清原氏系統本と呼ばれる本を伏見宮邦助親王の皇子で能筆家であった尊朝法親王が天正2（1574）年11月に書写したものである。尊朝法親王の手による式目の写本は複数知られているが、中でも古い時期のものに属する。	貞永元 (1232)年 7月10日	2200930502
1-3	足利直義御教書	足利尊氏の弟で当時幕政を主導していた足利直義（左兵衛督）が、保寧寺を祈願所に認定したもの。保寧寺は現在の鎌倉市山ノ内（長寿寺の向かいの辺り）にあった建長寺系の臨済宗寺院である（廃寺）。	暦応3 (1340)年 3月27日	2200930523
1-4	関東管領上杉憲顕奉書	関東管領の上杉憲顕が、現在の厚木市内に当たる毛利庄厚木郷半分について、鎌倉の円覚寺正統院への引き渡しを命じた施行状である。史料中には古庄・座間・三浦といった相模国の武士たちの名も見えている。憲顕は足利尊氏の母方のいとこで、（血統は別だが）有名な上杉謙信へと続く関東管領上杉氏の祖となった人物であるが、テレビアニメ化もされ、最近完結した漫画に独特な人物造形で登場し話題になっている。	観応2 (1351)年 7月22日	2200930516
1-5	関東公方足利基氏還補状	関東公方の足利基氏が、上野国の武士と思われる高山氏の所領を還補したもの。基氏の花押は父尊氏の花押を踏襲するも下部が一直線になる関東足利様の祖型となったものだが、1-3の基氏の叔父で養父でもあった直義の花押の特徴と一致していることがわかる。	貞治5 (1366)年 4月22日	2200930517
1-6	鎌倉大双紙（写本）	鎌倉大双紙は室町時代の関東地方の歴史を関東公方を中心に記した軍記物語である。康暦2（1380）年から文明11（1479）年の約100年間を記している。掲出したのは関東公方足利成氏による関東管領上杉憲忠謀殺のくだりで、享徳の乱の開始を告げる部分である。	戦国時代初期 成立カ	2200930505
1-7	西院流血脈	血脈（けちみゃく）とは仏教用語で教法が師僧から弟子に伝えられることを身体の血管に血が流れるのにたとえてその持続性と同一性を示したものの。系譜を朱線で示す事が多い。本資料は広沢流の流祖である益信から筆を起し、横浜の学僧として名高い印融の弟子の世代まで記されている。	文明19 (1487)年 3月21日	2200930506
1-8	永明軒東永書状	鎌倉の建長寺永明軒の僧とみられる東永が、自身の領地である子安（現横浜市神奈川区）への足輕の狼藉を禁じている。東永は扇谷上杉定正の甥の禅僧である。子安の地は1-9の『小田原衆所領役帳』では「葛西様（古河公方の足利義氏）御料」として見えるが、おそらく扇谷上杉氏の勢力が衰える中で北条氏の直轄領とされ、さらに北条氏綱の外孫である古河公方足利義氏の所領になるといった経緯を辿ったものと考えられる。	（年欠） 4月11日	2200930406

1-9	小田原衆所領役帳 (写本)	北条氏康が作らせた帳簿で一族・家臣の諸役賦課の基準となる役高を記したもの。「小田原衆」をはじめとした衆や社領・寺領といったまとまりで家臣500余名等の役高が貫高で記され、所領である郷村名も記されている。小田原北条氏研究の基本史料のひとつ。	永禄2 (1559)年 2月12日	2200930508
1-10	北条氏直書状	北条氏直が寒空の下で普請作業に勤しむ者らへ「江川」の酒1樽等を贈ったもの。「江川」は近世では葦山代官として著名な江川氏である。「江川」の酒は当時全国的に有名な銘酒であり、小田原北条氏に贈答用にも用いられ、織田信長らも口にしていた事が知られている。	天正9 (1581)年カ 11月14日	2200930504
1-11	亮淳書下状	西光院(小田原市本町、東寺真言宗)に対し、印可・伝法灌頂等の際の僧膳について、本寺(京都の東寺宝菩提院)の法式を守るとを指示している。亮淳は下総国幸手(現埼玉県幸手市)を領して関東公方に仕えたいいわゆる幸手一色氏の出身で京都の醍醐寺光台院主等をつとめた真言宗の学僧である。この翌年には関東に下向し各地で授法を行ったことが知られている。	天正11 (1583)年 3月23日	2200930503
1-12	豊臣秀吉朱印状	小田原合戦に際し秀吉の元に届いた陣中見舞の品々に対する礼状である。史料中に見える天鼠は蝙蝠の異称で、天鼠革とは鎧の草擦(銅の下に垂れて大腿部を守る部品)を繋げる部分で蝙蝠付とも言う。	(天正18 <1590>年) 5月28日	2200930519
第二部 喜連川文書				
2-1	細川勝元書状	幕府管領の細川勝元が、(関東公方足利成氏から將軍足利義政へ刀と馬が贈られたのに対し、義政からの返礼として)刀を贈る旨を関東管領の上杉憲忠へ伝えた披露状である。	(年欠) 12月21日	2200930201
2-2	前將軍足利義政御内書	足利義政が古河公方足利成氏(左兵衛佐)からの和睦申し入れを了承したもの。応仁・文明の乱に先行して始まり、その終結後も続き、関東の戦国時代の始まりと位置付けられ、およそ28年に亘った享徳の乱はようやく終結を迎えることとなる。	(文明14 <1482>)年 11月27日	2200930203
2-3	前將軍足利義政御内書	足利義政が古河公方足利成氏からの和睦申し入れを受諾し、越後守護の上杉房定(成氏が直接敵対している関東管領上杉顯定の実父)に和睦交渉を進めるよう指示したもの。左兵衛督(義政の庶兄で堀越公方の足利政知)の処遇が一番のネックであったことが見て取れる。	(文明14 <1482>)年 11月27日	2200930202
2-4	豊臣秀吉書状 (檀紙・折紙)	豊臣秀吉が古河氏姫からの進物に対し礼を述べたもの。氏姫は最後の古河公方義氏の娘だが、後には秀吉の計らいで一族である足利国朝、その没後は弟の頼氏に嫁し、後裔は喜連川氏という独特な存在として江戸時代へ続いていくこととなる。	年欠(天正 19<1591>年 カ) 6月3日	2200930204
2-5	孝蔵主覚書(折紙)	豊臣秀吉らが古河公方足利氏に贈った品々について秀吉の侍女である孝蔵主が書き立てた目録。孝蔵主は2-4史料中に「なおかうそうす申すべく候」と見えており、古河公方家への申次であったことがわかる。	(天正年間 カ) 6月5日	2200930205
第三部 中世文書の料紙				
中世文書に用いられる料紙とその材料に関してまとめました				

※展示している文書の画像は全て当館 HP の収蔵資料検索システムで検索すればご覧になれます(表示されるまで少し時間がかかります)。

また文書の画像・キャプション・釈文等をまとめた「展示解説パンフレット」(展示会場に見本をご用意しました)の PDF データが当館 HP 上の「れっつ!こもんじょ」のページからダウンロード出来ます(データでご覧になる前提で単頁で頁順に並べたものと、A3 横の用紙に短辺綴じで両面印刷し二つ折りにして綴じると見本の様に A4 サイズの冊子になる2仕様をご用意しました)。

PC 等の環境が無い、もしくはどうしても紙で持ち帰りたいという方は閲覧室受付にて実費(コピー代)で頒布いたします。